

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 0歳児

施設名

駒井保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色々な色を知る
絵の具の感触を楽しむ

<テーマの設定理由>

手形足形の製作を通し、色々な色の絵の具の感触を直接手足で感じ楽しめると考えたため。

2. 活動スケジュール

令和7年7月～令和8年3月
毎月1回1週目から2週目にかけて製作のテーマに合わせて手形または足形を取り、作品にする。
徐々に使う色を増やし、様々な色の存在を知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

落ち着いてできるよう、椅子とテーブル、手の届くところに手足を洗う用の洗面器、手足を拭く用の雑巾、画用紙を準備する。
絵の具（数色）、筆、パレット、画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絵の具を手の平や足裏に絵の具を塗り、手形足形を取る。取った手形足形を動物や果物等に装飾し楽しんだ。（絵具を塗るのは保育者が行った。）
絵の具の感触に慣れると、そこから模造紙にペタペタと手形を付けたりスタンプをして楽しむ遊びへと発展することができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

慣れないうちは、絵の具が手足に付くのを嫌がり泣いてしまう姿もあったが、慣れてくると絵の具を塗られる時のくすぐったい感触に笑ったり、指を動かして感触を楽しんでいた。早くやりたくて自分の順番まで友だちの姿を見ながら待つ子どももいた。「冷たくて気持ちがいいね。」「くすぐったいね。」と感触を代弁するように声を掛けながら行った。「ぺったんするよ」と言いながら画用紙に手や足を近づけると、自分で画用紙に押し付ける子どもや「ぺったん!」と言い楽しむ子どももいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

全てが初めての経験の子どもたちにとって、絵の具に触れることや色々な色を知ることは、視覚や触覚にいい刺激になったように感じた。慣れていくうちに絵の具で遊びたいという意欲へと変わっていった姿から、絵の具遊びやスタンプ遊びを取り入れ楽しむことができ、全体を通して0歳児に合った活動ができたと感じた。また、準備や片付けに時間を要する面もあるが、事前準備を十分に行うことで子どもが落ち着いて楽しむことができたのも重要な要素の一つだと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 1歳児

施設名

駒井保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵具の感触と色の混ざり合いを楽しむ

<テーマの設定理由>

ひんやりとした絵具の感触楽しみながら、絵の具の広がりや色が混じり、新しい色ができる様子を感触と視覚で楽しみ、色への関心を引き出すため。

2. 活動スケジュール

令和7年7月～令和7年9月

1か月目…きんぎょがにげた”の絵本の読み聞かせから“きんぎょ”“金魚ばち”のイメージが持てるように導入。

2か月目…子ども2～3人ずつ、クレヨンと絵の具で色付けと感触遊び。保育者は画用紙を金魚鉢の形に、セロファンを金魚の形に切っておく。

3か月目…色付けした物に金魚型セロファンを子どもが貼る。これを金魚鉢型に合わせ切って貼る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・導入のための絵本
- ・ビニール袋
- ・セロファン
- ・子ども制作用画用紙
- ・絵具(水色、黄緑、黄色)
- ・クレヨン

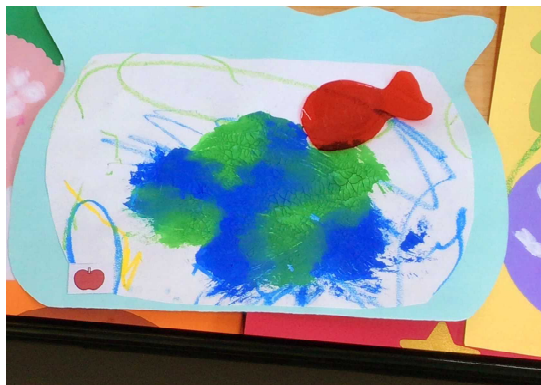
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

八つ切り画用紙1/4にクレヨンでなぐり書きし、子どもの選んだ2色以上の色をランダムにのせ、それをビニール袋に入れる。子どもにビニールの上から色をつぶしたり、押し広げ、絵の具のつぶれたり広がる感触を体験、またその時の色の混ざり合いを楽しむ。絵具が乾いたら、水槽形に納まるように形成し貼る。のりを付けたセロファンの金魚を子どもに貼ってもらい、金魚が泳いでいる金魚鉢を完成させる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者の声かけで、絵の具をつぶしたり押し広げて活動を楽しめる子が多かったが、中には感触にびっくりし、手を引っ込めてしまう子もいた。その児には感触を経験する機会を何度か作り、触ることに慣れてから再度製作するきかいを作ったことにより、楽しんでいた。色が混ざり合い変化していく様子を不思議そうに見ながらも楽しんでいた。保育者が見本を見せることで、安心感があったように思う。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

絵の具を押しつぶす経験と感触は子どもにとって未知のものだった。潰れていくだけでなく、押し拡がり混ざり合っていく色を、感触と視覚で楽しめるものだった。

一方で、感覚的に過敏な児にとっては、ハードルが高いもので、複数回の導入が必要なことが分かった。導入をしっかりとすることで、安心して行えていた。クレヨンのなぐり書きでの色の混ざりと絵の具での色の混ざりは混ざり方が異なり、子どもたちにはそれも楽しいようだった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 2歳児

施設名	駒井保育園
-----	-------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

触って 混ぜて 色泡遊び！

<テーマの設定理由>

感覚遊びが好きな年齢なので、触感を刺激しながらも色の混ざり合いや変化を楽しめると考えたため。

2. 活動スケジュール

7月～8月 お絵描きを通じて色を混ぜることによる変化を知る

9月 色泡遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

4つのテーブルを合わせ子どもたちがお互いの様子を見て楽しめるよう設定し、シートを敷く。

容器は洗面器・製氷皿・プラスチックのお椀や透明のトレイなど。混ぜるためのスプーンも人数分（20個）用意した。

道具は、洗顔用のスプレー泡・ハンドソープ・食用色素・水彩絵の具・模造紙・濡れタオル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

テーブルにシートを敷きテーブルごとに容器に泡を出しそこに食用色素や水彩絵の具を少量混ぜる。

口に入れないことなどの注意事項を伝え、スプーンや手で泡を混ぜ合わせる。

赤・青・黄など原色の他にも金・銀などの水彩絵の具を用意し、泡に垂らす分量を変えながら子ども達の前に置く。はじめはスプーンで混ぜていたが手で触りながら楽しむ。

それぞれの泡を混ぜ合わせ色に変化があることに気付き、好奇心のままに様々な色を混ぜてどんな色になるか予想しながら視覚や触覚などの感覚を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めての体験で触るのを躊躇ししばらく様子を見ている子もいたが、まわりの子たちが楽しんでいるのを見てやり始めていた。

泡に色が付いていくことに驚き「すごい！」と声を上げたり「アイスみたい」と喜んでいた。色素を混ぜる分量によって色の濃淡が違うことや、混ぜ合わせて何色になったかなど言葉にしながらかえた。子ども自身も「見て！きれいだよ」や「これも混ぜてみたい」など感性や好奇心を育む機会になった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回のプロジェクトを通し子ども達が大胆に遊べる機会となるとともに、言葉を引き出すきっかけや友だちとの関わり合いのきっかけとなる様子もあった。

また、『綺麗なあわあわまたやりたい！』との声も多く、色の変化や感覚的な面白さに興味を持ち感性を育む良い経験となったと感じた。

色泡だけでなく、さらにそこに氷を入れたり洗濯のりを混ぜてスライム風にしたりと遊びを発展させる良い機会となり、遊びの幅を拡げることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 3歳児

施設名	駒井保育園
-----	-------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

あさがおの花の色を絵の具で表現しよう

<テーマの設定理由>

お散布の際に様々な花に興味を示す様子があり、色と組み合わせでテーマにすることで子どもたちが関心を持って活動に取り組めると考えたため

2. 活動スケジュール

7月…屋外活動の時に、朝顔の花をよく観察

8月…図鑑の写真で朝顔の花を観察し、作品の完成イメージをみんなで共有する

9月…道具を活用し、朝顔の色の表現に挑戦！

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

半紙、のり、色画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

実物や写真を通して朝顔のイメージを持ち、表現したい色のイメージを膨らませた。
扇形に切った半紙の角の部分から絵の具を染み込ませ、一日干して、乾いたものを子どもたちに見せてから、保育者が色画用紙にあさがおと葉っぱをのり付けする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

青と赤がにじんで混ざる時に「むらさきになってきた。」などと色の変化を感じとる声が子どもたちの間から聞こえてきた。

あらかじめイメージしていた実物とは異なる仕上がりになっても、自分たちで作り上げた色の変化を楽しんでいる様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段の製作活動は完成物のイメージを明確に持たずに始める子も多いが、あらかじめ時間をかけてよく観察し、このように作りたいというイメージを持って臨んだ今回の活動では、じっくりと色の混ぜ方を考えたり、どんな仕上がりになるかドキドキしながら見守ったりと、より興味を持って取り組めた様子だった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 4 歳児

施設名

駒井保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色水あそび「なぜ？ どうして？ 色のまほう」

<テーマの設定理由>

色の混ざり合いや変化を楽しみながら、子どもたちの「不思議」「やってみたい」という探究心を育みたいと考えたため

2. 活動スケジュール

令和7年7月及び8月

水遊びの時間を利用して行う。タライ5個に、赤・青・黄の色水を作っておく。

- ・色水の約束を事前に伝える。

⇒口には入れない。

1人1個の容器を持ち、容器内で色を混ぜる。タライの中で混ぜない。

- ・容器に色水を入れて太陽の光にかざしてみたり、混色を試みる。

- ・友だちや保育者と一緒に感想を言い合ったり、友だちの作った色水を見たりする。

- ・後日、石けんの泡も併せて楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

食紅 赤・青・黄

透明カップ、ペットボトル容器など

液体せっけん

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

赤・青・黄などの色水を用意し、透明カップやペットボトルを使って色水遊びを行った。子どもたちは、色を混ぜることによって起こる変化に興味を示し、「むらさきになった」「緑になったよ」「ジュースみたい」と言葉にしながら、繰り返し試す姿がみられた。光にかざすことで違った見え方になることに気づき友だちに伝える姿もみられた。それぞれが自分なりの楽しみ方を見つけて楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

色が変化する瞬間に驚きや喜びの表情を見せていた。

友だち同士で「これとこれを混ぜてみよう」「何色を混ぜたの?」とやり取りがうまれていた。

泡を使うことで、新たな発見があり濁っていく様子に気付いたり泡の量で色味が変わることを伝えあっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

色水遊びを通して、子どもたちが主体的に考え、試し、表現する姿が多く見られた。今後もすくわくプロジェクトでは、子どもたちの「やってみたい」を大切にした体験活動を継続していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 5歳児

施設名	駒井保育園
-----	-------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

<ピーマンスタンプ絵画>

ピーマンのスタンプの形を生かしてイメージし、好きなものの絵を描こう。

<テーマの設定理由>

ピーマンの栽培を始める際に、実ったピーマンを使ってスタンプにしたり絵をかいたら面白いかな？と子どもたちに問いかけると「面白そう！」「やってみたい！」と意欲的だったため、テーマを決定した。

2. 活動スケジュール

令和7年5月～令和8年7月

ピーマンの苗木の栽培から始め、収穫する。

収穫後はピーマンの縦、横、端を切って断面を見せる。

絵の具を付け、スタンプを自由に試し押し出来るようにする。

スタンプの形から発想を引き出せるようにヒントを出し、子ども自身が好きなものを自由に描けるように、まずはスタンプと鉛筆でA4コピー用紙に描き、練習する。

描きたい絵のイメージがいたら、本番描きの画用紙にスタンプを押していく。

絵を描く画材は自由に選べるように用意する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ピーマン、包丁、まな板、平らな絵の具皿、絵の具、試し押し用の用紙、画用紙、色鉛筆、クレヨン、マーカー等の画材

テーブルを縦に繋げ、それぞれのテーブル中央にスタンプを置き、移動しながら様々な形のスタンプを押せるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

スタンプは緑、黄緑の2色とし、ピーマンであることを生かした。いくつも試し押しをして気に入った形を組み合わせ、本番の画用紙にスタンプしていった。その形から発想し、自分の好きなものや模様を、好きな画材、好きな色を自由に組み合わせて、じっくりと丁寧に描いていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

スタンプの形をカブトムシに見立て、角や足を描き歩いている姿にしたり、スタンプをいくつか組み合わせて「筋肉マッチョクワガタ」として内側をマーカーで色とりどりに鮮やかに塗っていた。他にもお花畑を描き、花毎に画材を変えたり、スタンプで円を描き、その内側を絵の具の混色で虹を描いたり、個性あふれる作品が出来、一人ひとりが「見て！」「カッコいい？」「優しい色にしたの」など保育者に話してくれながら、楽しんで行うことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ピーマン自体が小さくないので、用紙は画用紙の八つ切りの半分のサイズにした。小さすぎたかと心配したが、絵が苦手な子も負担なく、集中して自分の世界を描けたと思う。好きな画材を自分で選ぶようにした事も、発色の度合いや色の強さ、柔らかさの表現を子ども自身で考えて選ぶ、良い機会になったと思う。